

学 則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本校は、神奈川県立上鶴間高等学校と称する。

(目 的)

第2条 本校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育を施すことを目的とする。

(位 置)

第3条 本校は、神奈川県相模原市南区上鶴間本町九丁目31番1号に置く。

(課程及び学科)

第4条 本校の課程及び学科は、全日制の課・普通科とする。

(定 員)

第5条 本校生徒の収容定員は、神奈川県教育委員会（以下「教育委員会」という。）の定めるところとする。

(修業年限)

第6条 本校の修業年限は、3年とする。

第2章 学年、学期及び休業日

(学 年)

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学 期)

第8条 学年を分けて、次の3学期とする。

- (1) 第1学期 4月1日から7月31日まで
- (2) 第2学期 8月1日から12月31日まで
- (3) 第3学期 1月1日から3月31日まで

(休業日)

第9条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（第3号に該当するものを除く。次号において同じ。）
- (2) 日曜日及び土曜日
- (3) 学年始、夏季、冬季、学年末等の休業として校長があらかじめ教育長に届け出た日
- (4) 学校教育法施行令（昭和28年政令第340号）第29条に規定する体験的学習活動等休業日として校長が別に定める日（前3号に該当するものを除く。）

2. 前項第3号及び第4号に規定する休業日の日数は、第7条に定める学年で通算して60日以内とする。

(振替授業)

第10条 校長は、学校行事としての体育祭、文化祭等恒例の行事を行う場合その他教育の実施上特別の事情がある場合は、授業日と休業日を、又は休業日と授業日をそれぞれ振り替えることがある。

(臨時休業)

第11条 校長は、非常変災その他急迫の事情がある場合又は教育の実施上特に必要と認める場合は、臨時に授業を行わないことがある。

第3章 教育課程及び教科書

(教育課程)

第12条 教育課程は、高等学校学習指導要領の基準により校長が編成する。

2. 各教科に属する科目及び総合的な探究の時間に係る単位数並びに特別活動のうちホームルーム活動に係る授業時数は、校長が別に定める。

(教科書等)

第13条 本校において使用する教科書(教科書の発行に関する臨時措置法(昭和23年法律第132号)第2条第1項に規定する教科書をいう。)は、教育委員会が採択したもののうちから校長が選定する。

2. 前項に規定する教科書がない場合には、校長が選定する他の適切な教科用図書を使用することがある。

第4章 修了及び卒業の認定

(修了等の認定)

第14条 校長は、各学年の課程の修了又は卒業を認定するに当たっては、生徒の出席状況及びその他の平素の成績を評価してこれを行う。

(卒業証書の授与)

第15条 校長は、本校所定の教育課程を修了したと認めた生徒には、卒業証書を授与する。

(原級留め置き)

第16条 校長は、生徒のうちで当該学年の所定の教育課程を修了することができなかった生徒について、教育上必要があるときは、その者を原級に留め置くことがある。

第5章 入学、転学、留学、休学、退学等

(入学資格)

第17条 本校に入学することができる者は、次の各号に該当する者でなければならない。

- (1) 中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校を卒業した者又は中等教育学校の前期課程を修了した者
- (2) 外国において学校教育における9年の課程を修了した者
- (3) 文部科学大臣が中学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(4) 文部科学大臣が指定した者

(5) 文部科学大臣が別に定めるところにより、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認定された者

(6) 校長が、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(編入学資格)

第18条 第1学年の途中又は第2学年以上に入学を許可される者は、相当年齢に達し、当該学年に在学するものと同等以上の学力があると認められたものとする。

(入学志願の手続)

第19条 本校に入学を志願する者は、指定された期間内に入学願書その他所定の書類を校長に提出するとともに、入学検定料を納付しなければならない。

(入学者の選抜)

第20条 入学者の選抜は、教育委員会の定めるところに従い、校長がこれを行う。

2. 編入学者の選抜は、校長が別に行う。

(入学の許可及び手続)

第21条 入学の許可は、校長がこれを行う。

2. 入学を許可された者は、指定された日までに、学校所定の書類を校長に提出するとともに、入学料を納付しなければならない。

(転学)

第22条 校長は、他の高等学校からこの学校に転入学を志望する生徒があるときは、教育上支障がないと認める場合に限り、転入学を許可することがある。

2. 転入学を志望する生徒は、転入学願その他所定の書類を校長に提出しなければならない。

第23条 他の高等学校に転学を希望する生徒は、転学願を校長に提出しその許可を受けなければならない。

(留学)

第24条 校長は、生徒が外国の高等学校への留学を志望するときは、教育上有益と認める場合に、留学を許可することがある。

2. 留学を希望する生徒は、留学願を校長に提出しなければならない。

3. 留学について、その他の取扱いは、校長が別に定める。

(休学及び退学)

第25条 生徒が傷病その他やむを得ない理由のため休学又は退学をしようとするときは、保護者等は、休学願又は退学願に医師の診断書等その理由を証する書類を添えて校長に提出し、その許可を受けなければならない。

2. 休学の期間は、学年の終わりまでとし、継続の必要があるときは、改めて許可を受けなければならない。ただし、通じて2年を超えることはできない。

3. 校長は、生徒のうちに休養又は療養の必要があると認める者があるときは、休学を命ずることがある。

(復学及び再入学)

第26条 休学中の生徒が休学期間の満了前に復学しようとするときは、保護者等は、復学願に医師の診断書等その事実を証する書類を添えて校長に提出し、その許可を受けなければならない。

2. 中途退学した生徒が再入学しようとするときは、再入学願その他所定の書類を校長に提出しなければならない。

3. 再入学者の選抜は、校長がこれを行う。

(欠席)

第27条 生徒が傷病その他やむを得ない理由のため欠席しようとするときは、保護者等は、欠席届を校長に提出しなければならない。

(出席停止)

第28条 校長は、生徒が感染症にかかり、又はそのおそれがあるときは、その者に対し出席を停止させることがある。

(忌引)

第29条 校長は、生徒が親族の死亡により忌引を願い出たときは、これを許可することがある。

忌引日数基準表

死亡した者	日数
1 親等の直系尊属 (父・母)	7 日
2 親等の直系尊属 (祖父母)	3 日
2 親等の傍系者 (兄弟姉妹)	3 日
3 親等の傍系者 (伯叔父母)	1 日
3 親等の直系尊属 (曾祖父母)	1 日

※長距離の場合、実情により往復の日数を別に入れる。

(氏名又は住所の変更)

第30条 生徒は、氏名又は住所に異動があったときは、速やかに生徒等身上事項異動届を校長に提出しなければならない。

2. 保護者等の変更又はその氏名若しくは住所に変更があったときは、速やかに生徒等身上事項異動届を校長に提出しなければならない。

第6章 賞罰

(表彰)

第31条 校長は、他の生徒の模範となる生徒を表彰することがある。

(懲戒)

第32条 校長は、教育上必要があると認めるときは、生徒に懲戒を加えることがある。

2. 懲戒はその程度により、訓告、停学及び退学の処分とする。ただし、退学は次の各号のいずれかに該当する者に対してのみ行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者。
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者。
- (3) 正当の理由がなく出席常でない者。

(4) 学校の秩序を乱し、その他生徒としての本分に反した者。

第7章 授業料等

(授業料等)

第33条 入学検定料、入学料及び授業料の取扱いについては、県立学校の授業料等の徴収に関する条例（昭和33年神奈川県条例第3号）の定めるところによる。

2. 校長は、正当な理由がなく授業料が納付期限までに納付されないときは、当該生徒に対して出席の停止又は退学の処分を行うことがある。

第8章 職員組織

(職員組織)

第34条 本校の職員組織は、校長が別に定めるところによる。